

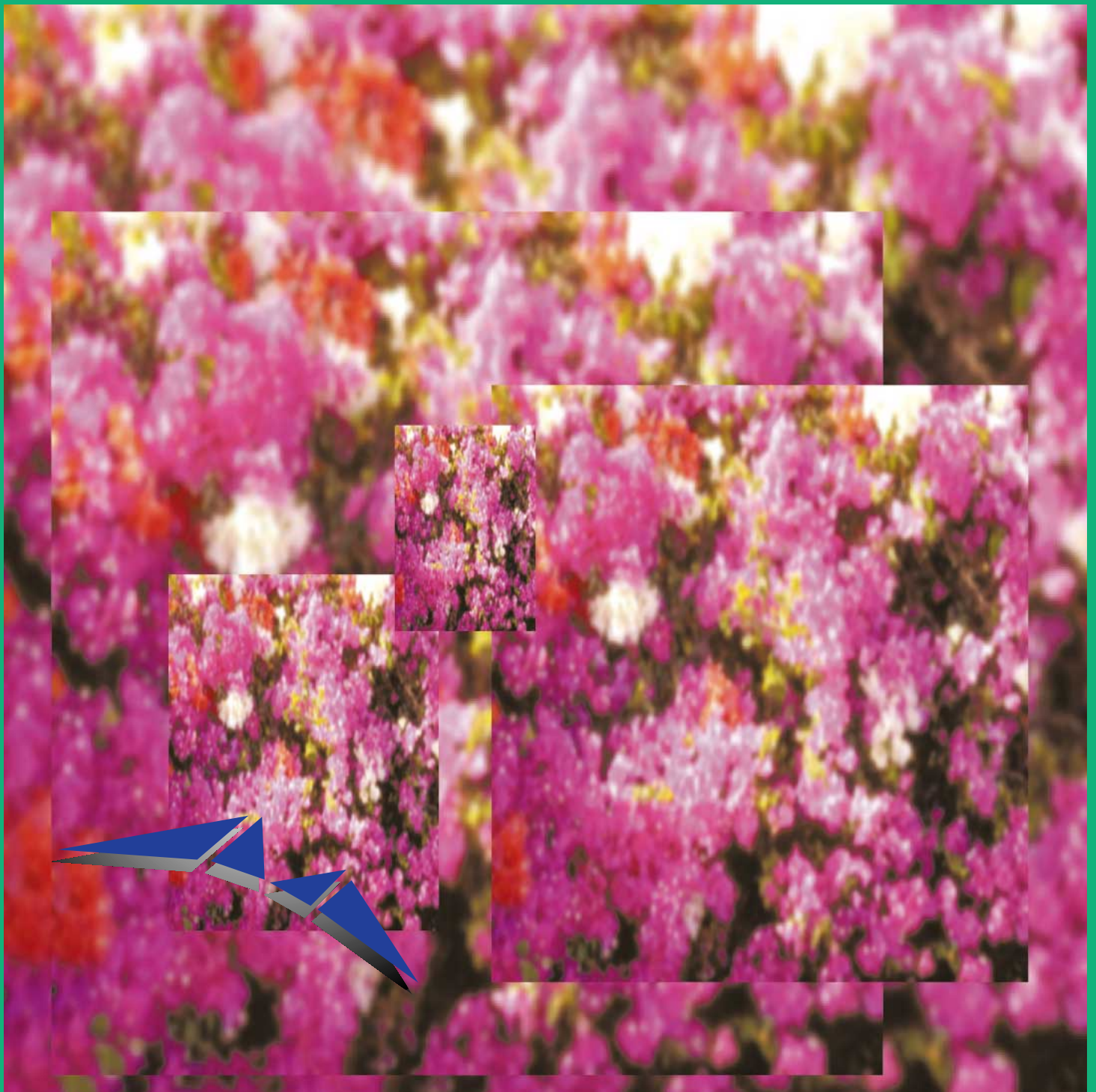
鹿大広報

No.160

April/2002

編集・発行
鹿児島大学
広報委員会

特集：「入学のよろこび、ともに歩もう」





大学とは？そして歯学部とは？

歯学部長 大工原 恭



新入生の皆さん、そして特に歯学部に入學した皆さん、入学おめでとう。おそらく皆さんは、合格通知を聞いて以来、目の前の暗雲が晴れた思いで、これから何をして遊ぼうかなどと考えているかも知れません。しかし、この広報を手にする頃には、自分は何をするために大学に入ったのか？そろそろ考えるべきだと思います。

当然大学とは、学問をする所です。そして大学での学問は、自分で勉強し考えることを意味します。これまで皆さんは、教師から教えられたことを覚え、理解することが勉強であったと思います。しかし大学では、極端な表現をすれば先生は何も教えません。むしろ、考えるきっかけのようなことは教室で話をするでしょうし、これまで皆さんが知らなかったような物の考え方、知識の一部も話をするでしょう。それを基にして、さらに勉強し考えて、学問を深くしていくのは、皆さん一人一人なのです。このことをはっきり頭に入れておかないと、これから始まる一般教育は「高校と同じだ」あるいは「高校以下だ」ということになり、学問する興味を失ってしまうことになります。それでは大学に入った意味がありません。何か1つの教科でよろしいから、自分で興味を持てるものを見つけ、自分で考え勉強するように心がけて下さい。勉強する場所、資料は図書館にありますし、それでも分からないことがあれば先生に質問すればよろしい。むしろ先生方でも分からないことは沢山あるでしょうが、そんな時は一緒に調べてくれるはずです。とにかく、最初の1年半の間に出来るだけ幅の広い知識、ものの考え方、そして自分で勉強する習慣を身につけて下さい。

さて、歯学部とは単に虫歯の治療と入れ歯を作製する歯科医師を養成する所と誤解されがちです。また、一般に歯科医師になるためには、手先の器用なことが必要条件のようにいわれています。しかし、歯科医学が技術中心であったのはもう過去のことです。これからの歯科医療従事者には、他の分野にも増して幅の広い教養と、それに裏打ちされた豊かな人間性、確かな倫理観がまず要求されているのです。それには、自分で勉強し、考えることが必要です。また、高齢化社会が進みつつある我国では、今後ますます高齢の、かつ何らかの全身疾患（例えば高血圧や糖尿病）を持つ患者さんが多く歯科医院を訪れるようになって来ています。従って、諸君はこのような患者さんに対してもその全身疾患を理解した上で、きちんとした歯科医療を行い得る歯科医師でなければなりません。本学部では、医学部の先生方の御協力を得て、それに配慮したカリキュラムを編成し、かつその改良に毎年努めているところですが、学生諸君がその重要性をあまり認識していないように見受けられるのは、残念に思っています。今後、歯科医師の間での競争はさらに激しくなり、歯科医師間での自然淘汰が進むものと思われますが、歯科医師が全く不要になるとは考えられません。歯科のみならず医科についても高度な知識と技術をきちんと理解して身につけていけば、この競争に必ず生き残れるはずです。なお、これらのさらに具体的な詳しいことは、新入生オリエンテーションで配布する学生便覧に「歯学部の教育理念・目標」に書いてありますから、必ず読んで、理解しておいて下さい。

ところで、歯学部の卒業年限は6年ということになっ



ています。従って、その後歯科医師の国家試験に合格すれば、すぐに収入が得られるようになると思っているかも知れません。確かに以前はそうでしたが、もうそういう世の中ではなくなりました。諸君達の学年から、研修医制度というものが義務化される予定で（現在は希望者のみ）、歯科医師の免許を得ても、その後1～2年間（期間は現在未定）の研修を大学附属病院などのしかるべき機関で修めないと、一人前の歯科医師と認められなくなります。この研修医は無給ではありませんが、決して諸君達が期待するような高給ではありません。このことを、諸君達はむろんですが、保護者（あまり適当な言葉ではないと思いますが、一般に使われているようなのでこれを使わせてもらいます）の方々にも良く理解（覚悟！）してもらっておいて下さい。

また、医学歯学の世界では以前から、博士の学位を持っていることが、一人前に扱って貰える条件の一つのようになっています。この博士の学位を一番早く取得する方法は、大学院への進学です。そのため、本学部でも大学院歯学研究科（博士課程、標準修業年限4年）を設けています。諸君達（そして保護者の方々も）は、この大学院への進学もはっきり視野に入れておいて欲しいと思います。すなわち、一人前になってからしかるべき収入が得られるようになるまでには、これからまだ10年以上かかるということです。

あまりよい話が続きませんが、もう一つ付け加えます。歯学部に入學した諸君は、5年次の後期から附属病院で実際に患者さんを診療する臨床実習が始まります。これまでは、この臨床実習に入る前にそれぞれの大学独自の方法で試験を行って、それに合格した者が臨床実習を受ける資格を与えられていました。しかし、2年程前からこの臨床実習に入る前の試験を全国で統一しようという動きが高まり、今年度から臨床実習開始前の共用試験という形で試行が開始されています。この共用試験は、コンピュータを用いて知識を問う試験（Computer Based Test、通常CBTと略）と、技術や患者さんに接

する態度を見る客観的臨床能力試験（Objective Structured Clinical Examination、通常OSCEと略して、オスキーと読む）の二つで構成されています。共用試験の詳しいことは、これから何度も説明する機会があると思いますが、今年度の新入生（すなわち諸君達）が臨床実習に入る時には正式に実施されて、これに合格しないと臨床実習を受けることが出来ないこと（落第、私は留年などというきれいな言葉は使いません）になる予定です。つまり、知識や技術の他に人格（人間性）を磨くことも必要ということです。このことも理解（覚悟）しておいて下さい。

これまでの諸君達の目的は、大学に合格することだったと思います。しかし、合格すればそれで終わりということではありません。これからも、さらに長い勉学の路を歩まなければ将来のバラ色の人生は開けません。歯学部を受験した諸君は、そういう路を自ら選んだのです。サークル活動も遊ぶことも大いに結構ですが、それに溺れてしまうのは大学生本来の道から外れていることを、まず認識して欲しいと思います。

以上を踏まえて結論をいえば、歯学部に入學した諸君には、まず歯科医学の修得に必要な基礎学力を身につけ、歯科医学に積極的に取り組む意欲、将来優れた歯科医師、あるいは歯科医学研究者・教育者になるのだというはっきりとした目的意識を持って、勉学に励んでくれるよう期待しています。

